

第60回通常総会・平成25年新年名刺交換会



第60回通常総会

[第60回通常総会]

- 1 開催日時 平成25年1月15日(火) 15時30分～16時30分
- 2 開催場所 生田神社会館 3階 菊
- 3 出席会員 132社(委任状提出 59社を含む。)
- 4 結果

(1) 会長挨拶(要旨)

昨年末の政権交代による株価の上昇は、デフレからの脱却をはじめ景気回復に対していかに国民が期待を抱いているかの現われでないかと思えます。本日補正予算が閣議決定され、地方自治体に対する補助金なども追加で措置されてくることになると思えますが、恐らく即効性のある土木工事関係が先行して執行され、我々の建築関係には一年程度は遅れて波及してくるでしょうが、いずれにしても明るい話題であります。

建設業界は、長い低迷期にあり、従業員が高齢化し、また協力会社などでは後継者不足もあり、廃業されてしまうことがあります。新しい若い力がなかなか参入せず、労働力不足が工事現場で顕著に現れてきており、電気関係の工事にもその傾向が出てきています。

また昨年から社会保険の未加入問題が発生しました。会員企業は当然加入されていると思えますが、協力会社、下請け会社の末端に至るまで法令により加入を義務付けられました。5年間の猶予期間がありますが、官公庁や大手ゼネコンは、労働者名簿や施工体制台帳にその記述を求め始めています。社会保険料の費用が、末端にいたるまで別枠で措置されるような方法が取られない限りなかなか実行が難しいと思えますが、協会としても大きな課題と考えており、研修会や情報提供を通じ、皆さんとともにこの問題を解決していきたいと考えています。

4月1日の一般社団法人への移行については、所要の手続きを終えて、認可がおりるのを待っている状況にあります。5月の総会が一般社団法人としての初めての総会となりますが、今まで以上に社会貢献活動の実施など協会活動のあり方が問われてくると思えます。役員一同一層努力していきますが、会員においては一般社団法人の一員という考えの下に活動を進めて行っていただければと思います。

当協会の会員数は、昨年からの退会もあり現在143社であります。以前から170社の加入があれば、協会の財政状況も安定し、安定した事業執行ができると考えて170社を目標としております。各地域で会員になっていただけそうな企業にアプローチしていただき、協会に伝えていただければ、役員が訪問して入会をお願いしたいと考えていますので、皆さんのご協力をどうかよろしく願いいたします。

(2) 議長選出

平井伸幸会長を議長に選出

(3) 議事録署名人選出

東洋電気工事(株)合田吉伸氏及び栄興電機工業(株)小坂佳秀氏を選出

(4) 議事

第1号議案 平成24年度補正予算に関する件、第2号議案 平成25年度事業計画に関する件、第3号議案 平成25年度収支予算に関する件

いずれも、満場一致で可決承認

[平成24年度永年勤続優良従業員表彰]

議事終了後、同会場において、20年度から新設された永年勤続優良従業員表彰の授賞式が行われました。

会員企業から推薦のあった、永年にわたり勤務され、勤務成績良好で他の模範となる次の5名に対し、平井会長が表彰状及び記念品を授与しました。

小山雅春(栄興電機工業(株))、松浦敏夫(西部電工(株))、古閑良彦(ダイトウ電気工事(株))、吉野比呂志(藤井電機(株))、井本良夫(ミナト電気工事(株))



表彰式

[平成25年新年名刺交換会]

午後5時から同会館4階富士において、兵庫県知事 井戸敏三氏、同副知事 吉本知之氏をはじめ兵庫県・神戸市幹部、関係団体代表等のご来賓をお迎えし、平成25年新年名刺交換会が開催されました。

開会に先立ち、まず、生田神社の巫女によるお神楽・豊栄の舞を奉納し、参会者の繁栄を祈念した後、平井会長の挨拶、井戸知事及び山口信行顧問(兵庫県議会議員)の祝辞、来賓紹介、国からの表彰受賞者の披露と受賞祝い金の贈呈、賛助会員の紹介に続き高田巖顧問(元神戸市議会議員)の発声による乾杯で和やかな懇親パーティーに入り、出席者の交流を図りました。



お神楽・豊栄の舞



平井会長挨拶



井戸知事祝辞

井戸知事挨拶要旨

今年は、なんとなく期待感に富んだ新年を迎えることができたのではないかと考えています。アベノミクスについては、大変期待されています。株価だけではなく、円安誘導にも大きな成果をあげています。リップサービスだけでもこんなに効果が出ています。いかに国民が景気回復とデフレ脱却を熱望しているか、その現れではないかと思っています。

今日、閣議で13兆円ばかりの補正予算が決定されましたが、そのうち建設国債を財源とするものが5.4兆円です。当初予算と合わせて10兆円規模の公共投資をやろうということになるのではないかと思います。それに伴って地方負担が付いてきますので、事業費ベースでは20兆円近くになり、大いに期待をしたいと考えています。この10年間、単独投資だけでも9兆円減っています。いかに投資的経費が落とされてきたか、補助事業も縮減に縮減を重ねてきました。しかしながらもう一度がんばろうということになってくれればよいなと思っています。

特に、笹子トンネルの事故などが、既存の施設や建物の長寿命化対策がいかに重要であるか、安全投資が不可欠であるかということを示してくれたのではないかと考えています。私は、有料道路の無料化は、ナンセンスと主張してきましたが、無料化すればその維持管理のコストを誰が負担するのかといえば、税金で負担せざるを得ない。そうなる使っていない人にも負担させるということになってしまう。受益者負担、使用者負担が原則であって、例えば40年後に無料化するというのはおかしい政策です。要は、既存の制度にいろいろな澱があり、それを見直して新しい出発をするのにふさわしい時期を迎えることになると考えます。

今年は、巳年です。蛇は脱皮するから再生を表すと言われますし、どんな難しいところに放り込んでもいつの間にか抜け出します。そういう意味で変化が激しくて厳しい状況にあっても、活路は必ずあるはずで、それをきっちり見つけ出してそれに挑戦をしていく。そういう気概で、今年一年臨みたいと思います。

電設業界に今回の公共事業が波及してくるには、すこしタイムラグがあるかも知れませんが、物事は回り始めました。県としても、積極的に安全・安心投資を重ねていきます。阪神淡路大震災から18年南海トラフ対策に対する総点検、東日本大震災の支援も続けていかなければなりません。今年は業界の皆さん方も多忙な一年となるかもしれませんが、どうかよろしくお祈りします。

主な行政関係出席者(敬称略)

井戸敏三(兵庫県知事)、吉本知之(兵庫県副知事)、山口信行(兵庫県議会議員・協会顧問)、高田巖(元神戸市会議員・協会顧問)、富岡誠司(県理事)、松本啓朗(県まちづくり部長)、森川格(県環境管理局长)、藤原一(県住宅建築局长)、安倍茂(県企業庁次長)、沖正彦(神戸市都市計画総局設備担当部長)、川端宏幸(兵庫県住宅供給公社理事長)